

名古屋市道德研究会研究発表会 開催 1月23日(火) 教育館にて

授業づくり研究部会

子どもたちの心に残る道德の授業
— 様々な工夫を生かした授業づくり —

授業後も子どもたちの心に残るような道德の授業を目指し、子どもたちが夢中になって考えられるよう、様々な工夫を取り入れて授業づくりをしました。

指導方法の7つの工夫

- ・教材提示
- ・発問
- ・話し合い
- ・書く活動
- ・表現活動
- ・板書
- ・説話

授業にこれらの7つの工夫を生かし、自分の生き方について見つめたり、考えを深めたりするきっかけとなる授業を目指しました。

表現活動の工夫(動作化)

親切にすることのよさを知り、自分にはどんなことができるのかを、考えることができました。



教科化対応研究部会

「考え、議論する道德」の授業を目指して

道德の教科化に向けて「道德科における質の高い多様な指導方法について」に注目し、3点の指導方法を取り入れた実践を紹介しました。



①読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習

ここがポイント

(低学年「はしのうえのおおかみ」)
○ ペーパーサートを活用して、登場人物の気持ちを表現させることで、自分の考えを登場人物に投影して、発言できるようにします。

②道德的行為に関する 体験的な学習

ここがポイント

(中学年「ブラッドレーのせい求書」)
○ まず、役割演技をさせます。そして、見ていた子どもたちに思ったことを発表させます。その後、役割演技をした演者に意見を聞くことで、学級全体で考えるようにします。

③問題解決的な学習

ここがポイント

(高学年「ロレンソの友達」)
○ 導入で、1時間を貫く学習課題(本当の友達とはどのような友達か)を子どもたちにもたせます。その後、教材を読み、話し合う活動を通して考えを深めるようにします。

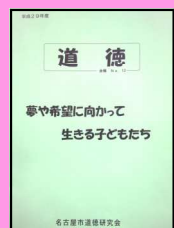
道德ノート

「心かがやけ」を
ぜひご活用ください!



会報を

お届けしました!!
ぜひ 学校全体で
ご覧ください。



市道德研究会顧問校長
あいさつ
栄 小学校長
森 久晃 先生

研究会では、「特別の教科 道德」に対応すべく、郷土資料に特化した「新・明るい心」や学習の記録を蓄積するための「道德ノート」の作成に取り組んできました。授業研究では、会報にあるように、ちょっとしたアイデアの積み重ねで、子どもたちが活躍できるように取り組みました。研究会の発表や会報を、ぜひ、それぞれの学校の道德の授業に生かしてもらいたいと願います。



教育委員会
指導室指導主事
指導助言
梶田 勉 先生

発表を聞かせていただき、道德の教科化がスムーズに進むであろうことが、期待できました。

道德の時間は「自分の生き方について考える」時間です。今後も、授業づくり研究部会では、自分の生き方につながる「心に残る授業」の工夫をさらに研究してほしいと思います。教科化対応研究部会では、議論することで、多様な考え方を取り入れ、自分の生き方を考えられる新しい指導方法を研究してほしいと思います。

これからも研究の成果を発信してもらいましょう。

教育センター 指導主事・指導助言
加藤 兼幸 先生
吉田 貴章 先生

夢や希望に向かって生きていこうとする子どもの姿が目につく研究発表でした。教科化に向け、どのような準備や工夫が考えられるのかが分かる大変意義深い内容でした。教科化を迎えても、道德の授業自体は、子どもたちが共鳴し合い、教師とともに生き方について考える時間であることには、変わりません。紹介された実践は、そんな道德の授業をつくりあげる一助となります。この実践内容を、ぜひ、各学校で実践してほしいと思います。

道德の「教科化」に向けて

今回は、道德科の評価の指導要録への記述のポイントについてご紹介します。(学習指導要領解説より)

道德科の評価は授業の
「学習状況や道德性に係る成長の様子」
について記述します。

年間や学期を通じての大きくりなまとまりの中で顕著な事項を、次の「評価の視点」から評価します。

- 1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 2 道德的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

そこで、例えば以下のようにしてみることが、考えられるのではないのでしょうか。

- ・・・年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で捉えた成長を表記
- ◇・・・特に顕著な事項を1場面例示して表記

1 多面的・多角的な見方へと発展しているか

○ 話し合いでは、積極的に意見を述べるだけでなく、友達の意見もしっかりと聞くことができた。その中で、「親切にするときには、まず、相手の気持ちを考えることが大切」という見方があることに気付くようになった。

◇ 「白くなったどろぼう」では、「正直に言うこと」について、友達の考えを取り入れ、自分の考えと比べたり、よいところを取り入れたりした。

2 自分との関わりで深めているか

○ 「友情」について、その大切さについて考えることができ、自分自身を見つめようとする意識が感じられた。

◇ 「手品師」の学習では、誠実に生きようとする主人公への憧れを強め、「どんなに小さな約束でも守りたい」という発言が見られた。

※ 上記のように発言や、記述から見取ることも大切ですが、発言が多くない児童や、記述を苦手とする児童が、話し合いに聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿に着目することも重要だと思います。